

ASEV Japan 10周年に際して

ASEV Japan 会長 秋山裕一

日本のブドウとワインにかかわる研究者、技術者で組織されている本学会が10周年を迎えました。心からお祝いを申し上げ、小学会ではありますが、今後の発展を期す次第です。

本学会は ASEV Japan と通称しているように American Society for Enology and Viticulture (ブドウ・ワイン学アメリカ学会) を親学会とする日本でのブドウ栽培とワイン醸造の学会として発足しました。

ここで、まず、本学会の発足にふれておきたい。山梨大学横塚教授が留学中に Napa の発展はカリフォルニア大学の先生方とワイン事業の方々との結びつきの深さにあるとの感銘をうけ、日本にもこのような産学協同体制をもちたいと願い、帰国後、カリフォルニア大学留学生だった方々と語らって、カリフォルニア大学のアドバイスを仰いだ。幸い同大学の Singleton 教授の多大のご理解と支援によって、アメリカ学会になった学会の成立にこぎつけた。本学会の定款が日本農芸化学会などといささか違っているのも又ブドウ・ワイン学アメリカ学会日本部会、American Society for Enology and Viticulture, Japan Chapter としているのもそのため、アメリカ学会と親密な関係を保つこととしています。

本学会は日本のブドウ栽培とワイン醸造とを結びつけて、日本のワインの発展に寄与することを目的とすることは今更申し上げるまでもありませんが、そのために本学会の会員には、栽培と醸造の二方面の研究技術者の参加をいただき、同一の場で研究成果の発表と討論を行っており、まことにユニークな学会であります。

会員は現在約300人、産業会友43社で、年間の運営費約300万円という小学会であります。しかし学会の活動は活発であります。

学会誌は4年前から年3回発行しております。この中には研究発表は勿論ですが、アメリカ学会誌の報告の要旨がすべて掲載されており、世界の研究情勢を知る最高の資料といえましょう。年次大会講演会と研修会セミナーを毎年1回づつ行なっている。特筆すべきことは2年に1回、アメリカ学会の代表を招待し、特別講演をいただき、世界の状況、カリフォルニアのワイン事情、ワイン技術や研究について伺っている。小学会ではありますが、国際派として大いに胸を張り、自負するものであります。

ワイン事業の今日は経済の現状からなかなか厳しく、将来も国際化の波は大きく寄せてくることは必定でありましょう。栽培面積でフランスの約30分の1に過ぎず、その上気候や食習慣の違う我が国で、早急な好転は望めないと思いますが、醸造技術では世界的レベルを持っており、栽培の方々と協力して、日本の風土にあったワイン専用品種の育成に進み、日本ワインの確立の日を期したいものであります。

10周年にあたり、本学会の成立と今日までの地道の成長にお力をいただいた諸先輩に御礼を申し上げ、学会会員の皆様の益々の御発展と協力をお願いする次第です。